

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日：2022年10月3日
- 事業名：“きずなで咲かそう”笑顔の花プロジェクト
- 資金分配団体：特定非営利活動法人ひろしま NPO センター
- 実行団体：特定非営利活動法人石州きずなの里

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
「交流サロン」の開催	開催回数 参加人数	週5回 1回当たり1~2人	2024年1月	週5回1人 週2回1人	2
「交流会」何でも話してみよう	回数 参加人数 参加者の満足度	月1回開催 参加人数1人~7人 延べ1~28人 参加者の満足度4~5	2024年1月	コロナまん延の為中断	3
「交流遠足」自分たちと繋がれる社会を見てみよう	回数 参加人数 参加者の満足度	年4回開催 参加人数10人程度 参加者の満足度4~5	2024年1月	2022年7月2名で開催	2

「珈琲教室」コーヒーの淹れ方や焙煎を学ぼう	回数 参加人数 参加者の満足度	月 1 回開催 参加人数 1~7 人 延べ 1~2 8 人 参加者の満足度 4~5	2024 年 1 月	2022 年 4 月 5 回延 8 人 5 月 4 回延 4 人 6 月 3 回延 3 人 7 月 4 回延 4 人 8 月 21 回延 21 人（職員）	2
「和紙教室」和紙と仲良くなる	回数 参加人数 参加者の満足度	月 1 回開催 参加人数 1~7 人 延べ 1~2 8 人 参加者の満足度 4~5	2024 年 1 月	2022 年 4 月 1 回延 1 人 5 月 1 回延 1 人 4 月 2 回延 10 人（健常者） 5 月 2 回延 10 人（健常者） 6 月 2 回延 10 人（健常者） 7 月 2 回延 10 人（健常者） 8 月 コロナまん延の為中止（健常者）	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
助成金でエアドッグを購入し対応。また、希望者とは携帯電話通話や携帯電話での SNS を利用し交流している。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等
希望者向けのチラシを制作
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全般	川神由理	理事・施設長
内部	事業設計	佐田フサ子	理事・看護師
内部	事業課題	米原厚子	サロン担当職員
外部	事業設計	篠田明子	浜田市役所市民福祉課
外部	事業課題	河上素子	ひきこもり対策事業経験者
外部	事業課題	村木勝也	浜田市議会議員福祉環境委員会

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
安心できる場所が見つかる	受け入れ人数	週 5 ～ 6 回 6 時間程度 4 ～ 5 人	2 0 2 4 年 1 月	2022 年 4 月に交流サロンを開設。2022 年 4 月より 2 名受け入れている。今後は広報を積極的に行い当該者の利用を促進したい。
自分と向き合い自分を知ることが出来る	アンケート ・満足度 (5 段階評価) ヒヤリング ・やりたいことが発見できた人数	満足度 4～5 ・ 5 0 人	2 0 2 4 年 1 月	職員の休職に伴い十分な準備が出来ず遅れているため、アンケートは 10 月末に行う事とした。 本人のヒヤリングが出来ない場合ご家族に対応いただく予定。

<p>珈琲に興味を持ち、珈琲の仕事に関わる</p>	<p>参加人数 焙煎師の数</p>	<p>週1回（延べ4人） 焙煎師1～2人</p>	<p>2024 年1月</p>	<p>（参加人数） 2022年4月より焙煎機メンテナンス1名 4月 5回3名（利用者）、8回1名（職員） 5月 3回3名（利用者）、8回1名（職員） 6月 3回2名（利用者）、8回1名（職員） 7月 5回2名（利用者）、8回1名（職員） 8月 夏休み等あり中止、8回1名（職員） 9月 1回1名（利用者）、8回1名（職員） （焙煎師の数） 1名（職員） 利用者の中から焙煎師を目指す者が現れていないが、職員1名を焙煎師として育成している。</p>
<p>和紙に興味を持ち和紙の仕事に関わる</p>	<p>参加人数 職人の数</p>	<p>週1回（延べ4人） 職人1～2人</p>	<p>2024 年1月</p>	<p>（参加者人数） 2022年 4月1回 1名（和紙原料加工体験） 5月1回 1名（和紙原料加工体験） 4月2回 5名（健常者の教室） 5月2回 5名（健常者の教室） 6月2回 5名（健常者の教室） 7月2回 5回（健常者の教室） 8月コロナまん延の為中止 9月2回 5名（健常者の教室） （職人の数） 0名</p>



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>(アウトカム1) 安心できる場所が見つかる。 ・現在2名の利用がある。今後産休職員が復帰する事で利用者募集活動に力を注ぐことができる見込み。</p> <p>(アウトカム2) 自分と向き合い自分を知ることが出来る。 ・産休職員の復帰で、今以上に利用者に向き合うことが出来る見込み。</p> <p>(アウトカム3) 珈琲に興味を持ち、珈琲の仕事に関わる。 ・産休職員の復帰で、より多くの時間を珈琲教室に使うことが出来る見込み。</p> <p>(アウトカム4) 和紙に興味を持ち、和紙の仕事に関わる。 ・産休職員の復帰で、より多くの時間を和紙教室に使うことが出来る見込み。 ・健常者との教室やカフェを開設する事で、多様な参加者を得ることが出来る見込み。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動内容は計画通りに実施されているか	計画より遅れている	新型コロナまん延の為人的交流が停滞しているので計画より遅れているが、当該事業により石州きずな事業所を利用されている若者を対象に従来の利用者も含めて活動をしている。今後は広報を積極的に行い当該者の利用を増やしたい。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業を通して新たなアイデアが生まれたか	生まれている	事業を行う上で判明した、希望者が利用できないハードルの一つ(障がい者施設への偏見からくる躊躇)について解決するために、職員と意見交換し健常者の利用も推進する事で多様な利用者の実績を作りハードルを低くする事で、前向きに取り組むこととした。
組織基盤強化・環境整備	総合的な判断として、実行団体の組織基盤はどの側面でどの程度強化されたか 包括的支援事業の在り方に関する知見や経験を蓄積する体制を整備しているか 実行団体は取り組みを継続しているか。それにより事業で目指していた効果が継続して発現しているか。	強化されている 少し遅れている 継続している	倫理規定・利益相反防止に関する規定・コンプライアンス規定・リスク管理規定・経理に関する規定の一部など、整備されていなかった規定を整備したことにより組織基盤が強化された。 現在職員2名が産休で休んでいるため遅れているが、1月以降復帰後に意見交換及び勉強会を再開し包括的な支援が出来るよう体制を整備する。 当該事業を開始し、以前よりひきこもりに関する情報が入ってくるようになったと感じる。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

コロナ禍で事業を進める為準備期間が延びている。狭い範囲での広報ではあるが養護学校辺り広報や相談支援事業所への広報により 2 名の希望者を得ることが出来た。また、生活介護利用者の中でも珈琲や和紙に興味を持つ希望者を得ることが出来た。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

事業の対象を当該者のみに設定していたが、当該者のみでは来所のハードルが高いという事がわかった。それによって健常者も対象の一部として事業展開を行う必要性に気づかされた。利用希望者には、障がい者施設に対しての偏見（自分は障がい者ではない）がある場合、素直に来所しにくいことがあることが希望者との会話の中で判明。当初は当該者のみ対象に事業を推進する予定であったが、短期アウトカムを達成するために、①多様な利用者を得る②事業を継続するための資金作り③出口の一つとして利用者が実際に関われる場所づくりとして、施設内にカフェを開設する事も視野に入れ最終アウトカムの“誰もがこの町で笑顔で暮らす”環境作りを行いたい。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>現状では新型コロナまん延の為に交流事業が出来ない状況にあるが、ウイズコロナを踏まえて、ウイルス除去機器や体温測定機器、消毒機器等を準備し事業を進める。また、1月には産休の職員も復帰する予定であり実行職員もそろそろ為、包括的な支援を行うことが出来る。以上の状況を踏まえ前向きに事業を進めることが出来ると考え、残りの事業期間で目標値に達する見込みがあると考え。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

現状での問題点は5点

- ① 「コロナが近隣の児童施設で起こりサロンを開催できない」を解消するため玄関先での検温消毒用の機材をそろえることにより、手厚い防止策を講じ事業を再開する。
- ② 「職員2名の産休により事業が滞っている」を解消するために新たにサロン担当職員を配し対応。しばらくは職員研修を手厚く行いサロンの基盤を盤石にし、サロン再開に備える。
- ③ 希望者が来所に踏み込めない理由として把握したことに㊦障がい者の施設と言うハードル㊧交通手段がない、に対して㊦健常者の施設利用を増やす。(Café・教室など) ㊧無料送迎の職員と車両を配置し対応することを早急に実行してゆく。
- ④ 当該事業の広報が効率よく行えるようHPやFacebookの形態を変える。
- ⑤ “あったかいいねっと”やほかの事業者と意見交換をする場を設ける。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



和紙教室原料体験



珈琲教室抽出



焙煎教室メンテナンス



和紙教室 折染め体験